

教育目標「自ら未来を拓き 心豊かに たくましく生きる子どもの育成」



150周年

遷喬小だより

TEAM 遷喬・PRIDE 遷喬 ~子どもも 教職員も 地域も 伸びる学校~

全国学力・学習状況調査結果

今年度4月に6年生児童を対象として実施した全国学力調査で、本校は国語、算数とも全国の平均正答率よりも低い結果でした。特に、正答率の低かった問題を教職員で分析し対応策を検討しました。2学期からの授業改善に生かしていきます。

下の表は、6年生児童を対象とした質問紙調査の結果の一部です。数値は4段階評価、「当てはまる」「どちらかといえば 当てはまる」「どちらかといえば 当てはまらない」「当てはまらない」の「当てはまる」と回答した児童の割合です。(生活面項目の一部を除く)

学習面では、今求められている「主体的な学び」「対話的な学び」に関する質問項目が、全国や岡山県平均より高くなっています。また、国語、算数が好き、よく分かる児童の割合も高くなっています。

今年度は、特に「表現力」を高めることを意識した学習活動を進めています。「課題を解決するために、表現する力」を2学期も高められるようにしていきたいと考えています。

		本校	岡山県	全国
学習面	5年生までに受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか	37.5	29	29.5
	学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができていますか	51.6	42.1	41.4
	5年生までに受けた授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していましたか	18.8	24.2	25.9
	国語の勉強は好きですか	40.6	25.6	24.1
	国語の授業の内容はよく分かりますか	50	39.7	39.2
	算数の勉強は好きですか	37.5	34.8	34
	算数の授業の内容はよく分かりますか	59.4	44.7	44.9

生活面では、前向きに生活していくために大切な「自分にはよいところがある」「将来の夢や目標をもっている」と回答している児童の割合が、全国や岡山県平均より高くなっています。総合的な学習・生活科を中心に本校が進めてきた、各児童の考えが生かされ、活躍する場面がある課題解決学習を2学期も大切にしていきたいと考えています。

「助け合い」や「いじめ」についての質問項目では、各家庭の「思いやりの心」を大切に

したこれまでの子育てや本校のめざす児童像のひとつである「支え合う子」の取組の成果が見られる結果となっています。

ゲーム時間や SNS・動画視聴時間に課題が見られます。そのことが就寝時刻にも影響していると考えられます。引き続き保護者の皆様と連携し、改善を図ることができればと思います。ご協力をよろしくお願いいたします。

		本校	岡山県	全国
生活面	自分には、よいところがあると思いますか	62.5	45.9	43.4
	将来の夢や目標をもっていますか	62.5	60.4	60.6
	人が困っているときには、進んで助けていますか	51.6	45.6	46
	いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか	90.6	79.8	79.5
	毎日、同じくらいの時刻に寝ていますか	34.4	39	39.7
	毎日、同じくらいの時刻に起きていますか	67.2	56.3	56.1
	朝食を毎日食べていますか	84.4	83.2	83.4
	普段、1日当たりどれくらいの時間、テレビゲーム（コンピュータゲーム、携帯式ゲーム、携帯電話やスマートフォンを使ったゲームも含む）をしますか * 2時間以上の割合	59.4	51.1	49.2
	普段、1日当たりどれくらいの時間、携帯電話やスマートフォンでSNSや動画視聴などをしますか * 2時間以上の割合	34.3	33.6	33.8

遷喬小150年の軌跡⑨

遷喬小学校は、昭和61年から4年間、久世町教委研究指定校、昭和62年と63年は文部省研究指定校となり、「合科的学習」の研究を行いました。平成6年から、「総合的な学習の時間」の前身である「総合学習」の研究と実践を行い、自主公開研究会を開き、県内外から多くの教員が研修に訪れました。「生活科・総合的な学習の時間」の研究は平成17年まで行われました。その当時の6年生は、キャリア教育の先駆けとして職場体験学習を行っていました。その後、遷喬小学校では、算数科や国語科等の研究を行っていましたが、児童の主体性を引き出し、「思いを伝い合える」学校づくりをめざし、平成29年から再び校内研究を「生活科・総合的な学習の時間」としました。遷喬小学校の取組が岡山県型PBLガイドブックに掲載されました。また、令和5年度の6年生の実践が山陽新聞社「桃太郎賞」を受賞しました。



昭和63年 研究会



平成29年 研究会



令和3年 研究会